

十八才の選挙権

十八才の選挙権

国や地域ちいきの代表者を選ぶ選挙で投票できる権利を、選挙権といいます。日本では、長い間、選挙権は二十才以上の人にあたえられていました。

けれども、二〇一五年に法律が改められ、二〇一六年からは、十八才と十九才の人も、選挙で投票できるようになりました。十八才以上の人は、国の選挙だけでなく、住んでいる都道府県や市町村の選挙でも投票することができます。

選挙権の年齢ねんれいが引き下げられたのは、若い世代の意見を、国や地域ちいきの政治に、もっと反映させるためです。これからの社会をになっていくのは、若い人たちです。その若い人たちの声が政治にとどくことは、とても大切です。

ところが、若い世代の投票率は、ほかの世代とくらべて低いという課題があります。投票に行かなければ、その人の意見は、政治に反映されません。投票は、選挙の日に投票所へ行くほか、前もって投票する「期日前投票」という方法もあります。

選挙で一票を投じることは、自分たちのくらしや社会の未来を、自分たちで決めることにつながります。今のうちから、身の回りの問題に関心を持ち、自分の考えをもつようにしておくことが大切なのです。

1 選挙で投票できる権利を、何といえますか。

2 何年から、十八才と十九才の人も投票できるようになりましたか。

年

3 選挙権の年齢ねんれいが引き下げられたのは、どうしてですか。

4 若い世代の選挙について、本文で課題とされていることはどれですか。

- ア 投票率が低いこと
イ 候補者が少ないこと
ウ 選挙の回数が多いこと

5 筆者は、今のうちから、どんなことが大切だと言っていますか。
